

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3100856号
(U3100856)

(45) 発行日 平成16年5月27日(2004.5.27)

(24) 登録日 平成16年1月28日(2004.1.28)

(51) Int.Cl.⁷

G 0 1 B 3/10

F I

G O 1 B 3/10

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2003-271602 (U2003-271602)

(22) 出願日 平成15年10月3日(2003.10.3)

(73) 実用新案権者 303053116

佐藤 龍也

宮城県仙台市若林区荒井字梅ノ木60-6

メゾンケーエム2-205

(74) 代理人 100095359

弁理士 須田 篤

(72) 考案者 佐藤 龍也

宮城県仙台市若林区荒井字梅ノ木60-6

メゾンケーエム2-205

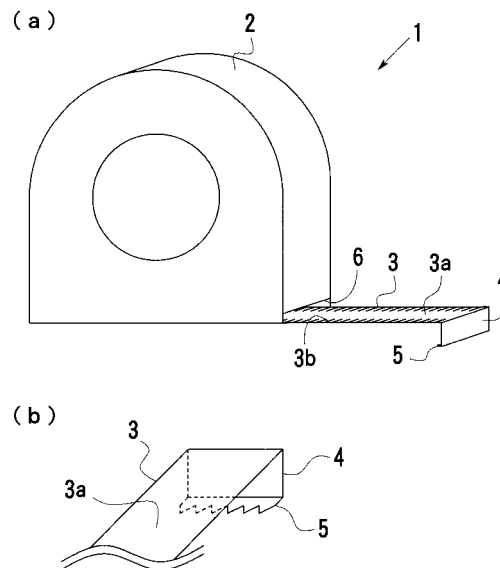
(54) 【考案の名称】 爪を備えた巻尺

(57) 【要約】

【課題】 1人での測定を容易にし、作業効率の改善を図ることができる爪を備えた巻尺を提供する。

【解決手段】 巻尺帯3は、片面3aに目盛3bを有し、ケース2の内部に引出し可能に収納されている。保持爪4は、巻尺帯3の先端に、片面3aの反対面側に垂直に突出している。保持爪4は、その先端に垂直に、巻尺帯3と平行に突出する鋸歯状爪5を一体的に有している。鋸歯状爪5は、複数の先端が尖った歯から成る。長さを測る場合、鋸歯状爪5を長さを測る起点に引っ掛け、ケース2を持って巻尺帯3を伸ばして測る。このとき、鋸歯状爪5を起点に引っ掛けて、保持爪4が起点から外れるのを防止する。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

片面に目盛を有する巻尺帯がケースの内部に引出し可能に収納され、前記巻尺帯の先端に前記片面の反対面側に垂直に突出する保持爪を有する巻尺であって、前記保持爪は先端に垂直に前記巻尺帯と平行に突出する鋸歯状爪を一体的に有することを特徴とする爪を備えた巻尺。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、爪を備えた巻尺に関する。

10

【背景技術】

【0002】

従来巻尺は、片面に目盛を有する巻尺帯がケースの内部に引出し可能に収納され、巻尺帯の先端に垂直に突出する保持爪を有している。その従来巻尺で長さを測る場合、両手を開いた長さを超える長さのときには、保持爪を長さを測る起点に引っ掛け、ケースを持って巻尺帯を伸ばして測ろうとすると、保持爪が外れやすく、測りにくかった。そこで、巻尺帯の保持爪を起点に引っ掛けたうえで、巻尺帯の先端を他の人に押さえてもらって測るのが一般的であった。このため、長さを測るために、巻尺帯の先端を押さえる人とケースを持つ人の2人で行なう必要があり、効率的でなかった。この問題を解決しようとする従来巻尺として、保持爪の外側面に磁石を取り付けたものがある（例えば、特許文献1参照）。

20

【0003】

【特許文献1】特開平10-30901号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、特許文献1に示す従来技術では、磁石を吸着するスチール製の物からの長さを測る場合にしか保持爪の磁石は役立たず、それ以外の場合には2人で測らなければならないため、作業効率の改善を図ることができないという課題があった。

【0005】

本考案は、このような従来課題に着目してなされたもので、1人での測定を容易にし、作業効率の改善を図ることができる爪を備えた巻尺を提供することを目的としている。

30

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記目的を達成するために、本考案に係る爪を備えた巻尺は、片面に目盛を有する巻尺帯がケースの内部に引出し可能に収納され、前記巻尺帯の先端に前記片面の反対面側に垂直に突出する保持爪を有する巻尺であって、前記保持爪は先端に垂直に前記巻尺帯と平行に突出する鋸歯状爪を一体的に有することを特徴とする。

【0007】

鋸歯状爪は、複数の先端が尖った歯から成る。鋸歯状爪は、保持爪と一体的にスチールから成ることが好ましい。

40

本考案に係る爪を備えた巻尺は、長さを測る場合、鋸歯状爪を長さを測る起点に引っ掛け、ケースを持って巻尺帯を伸ばして測る。このとき、鋸歯状爪を起点に引っ掛けることにより、保持爪が起点から外れるのを防止して、1人での測定を容易にし、作業効率の改善を図ることができる。

【0008】

なお、保持爪は、磁性を帯びていてもよい。この場合、スチール製の物を起点としたときにも、保持爪を起点に吸着させることにより外れるのを防止して、1人での測定を容易にし、作業効率の改善を図ることができる。

【考案の効果】

50

【0009】

本考案によれば、1人での測定を容易にし、作業効率の改善を図ることができる爪を備えた巻尺を提供することができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0010】

以下、図面に基づき、本考案の実施の形態について説明する。

図1は、本考案の実施の形態の爪を備えた巻尺を示している。

図1に示すように、爪を備えた巻尺1は、ケース2と巻尺帯3と保持爪4と鋸歯状爪5とを有している。

【0011】

図1(a)に示すように、ケース2は、巻尺ケースの一般的な形状を有している。ケース2は、側面の角部に、スリット状の引出口6を有している。

巻尺帯3は、片面3aに目盛3bを有している。巻尺帯3は、片面3aを内側にして巻き取られ、バネで巻き取り方向に付勢されてケース2の内部に収納されている。巻尺帯3は、固定端がケース2の内部で固定され、先端が引出口6に配置されている。巻尺帯3は、引出口6から引出し可能で、自動的に巻き取り可能となっている。

【0012】

保持爪4は、スチールから成り、巻尺帯3の先端に、片面3aの反対面側に垂直に突出して設けられている。保持爪4は、引出口6より大きく、巻尺帯3が巻き取られたときケース2の内部に入り込まないようにしている。保持爪4は、巻尺帯3が巻き取られたとき引出口6の縁部に引っ掛かる。保持爪4は、図では省略してあるが、角などに引っ掛けて測定しても壁などに押し付けて測定しても測定値が正確になるよう巻尺帯3の長さ方向に厚さ分、移動可能となっている。

図1(b)に示すように、鋸歯状爪5は、スチールから成り、保持爪4と一体的に構成されている。鋸歯状爪5は、鋸の歯のように複数の先端が尖った歯から成る。鋸歯状爪5は、保持爪4の先端に垂直に、巻尺帯3と平行になるよう巻尺帯3に対し鉤形状に突出して設けられている。

【0013】

次に、作用について説明する。

巻尺1は、長さを測る場合、鋸歯状爪5を長さを測る起点に引っ掛け、ケース2を持って巻尺帯3を伸ばして測る。このとき、鋸歯状爪5を起点に引っ掛けることにより、保持爪4が起点から外れるのを防止することができる。このため、巻尺1は、巻尺帯3の先端を他の人に押さえてもらう必要がなく、1人での測定を容易にし、作業効率の改善を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】本考案の実施の形態の(a)爪を備えた巻尺を示す斜視図、および(b)巻尺帯の先端を示す拡大斜視図である。

【符号の説明】

【0015】

- 1 巻尺
- 2 ケース
- 3 巻尺帯
- 4 保持爪
- 5 鋸歯状爪
- 6 引出口

10

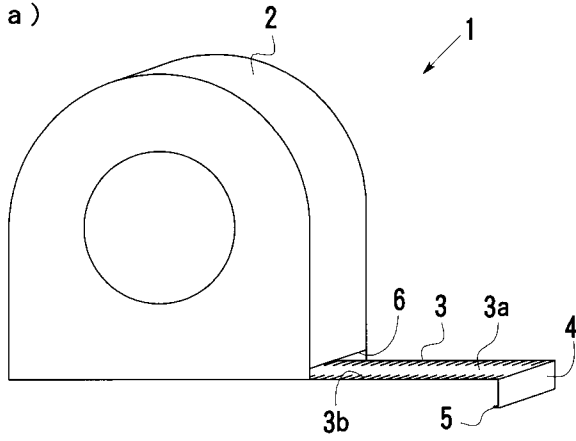
20

30

40

【図 1】

(a)



(b)

